

## 第 20 回 猪名川自然環境委員会 議事概要

- 日 時:平成 24 年 2 月 23 日 (木) 14:00~16:00
- 場 所:大阪マーチャングイズマート 2F 会議室
- 出席者:森下委員長、池淵委員、斉藤委員、田中委員、村上委員、竹門委員 (オブザーバー)  
(猪名川河川事務所) 谷川所長、綾木副所長、野田課長、松井課長、荘司課長、  
中澤係長  
(財)河川環境管理財団) 青木、出口、本山  
傍聴:7名

### ■ 議事次第:

1. 開 会
2. 挨拶
3. 議 事
  - 1) 第 19 回猪名川自然環境委員会 議事概要の確認について
  - 2) 平成 24 年度 工事予定箇所への河川環境への影響評価と対策について
  - 3) 平成 24 年度 工事箇所モニタリング調査計画について
  - 4) 平成 23 年度 工事事前調査結果報告について
  - 5) 平成 22 年度 工事事後調査結果報告について
  - 6) その他 第 10 回猪名川総合土砂管理委員会報告

### ■ 結果および主な意見:

#### 【第 19 回猪名川自然環境委員会 議事概要の確認について】

#### ○平成 23 年度工事予定箇所への河川環境への影響評価と対策について

- ・ 名神藻川橋・尼崎市上水道藻川水管橋構造物保護、利倉橋、猪名川サイフォン、猪名川第2サイフォン、猪名川第3サイフォン構造物保護、名神猪名川橋、阪急神戸線猪名川橋梁、北部浄化センター伏越 構造物保護、について、「サイフォン等の保護」は、生物の保護と混同するため「サイフォン等の構造物の洗掘防止」と表現した方が良い。

#### ○魚道の遡上について

- ・ 「猪名川にアユが遡上してきている結果が大事なことである」を「猪名川にアユが遡上していることが重要で、今後はその遡上数を増大することが重要となる」とする。

#### ○河原再生試験施工地モニタリング調査について

- ・ 「都市河川の中に自然景観を残すことが難しい」を「都市河川の中に自然景観を残すことが望ましい」とする。

## 【平成 24 年度 工事予定箇所への河川環境への影響評価と対策について】

### ○ 全体計画について

- ・ 掘削事業と再生計画は両立すると考え、掘削土砂を利用する等も考えて進めていくことが大切である。

### ○ 利倉地区他河道掘削工事について

- ・ 第 11 回構造検討部会の内容で、「冠水した方が植物にとって良い」を「平常水位の所まで掘削することで冠水頻度も上がり植物にとって良い」とする。

### ○ 猪名川大橋地区礫河原再生工事について

- ・ 景観把握の観点から、この地区はJR宝塚線から見える場所であり、どの地点から見え始め、どの程度見える時間があるかを把握することが大切である。車窓からの風景について、どのように見せるかを考えていくことが大切である。
- ・ この地区内には、礫河原やワンドがあり、掘削しても残す再生事業は可能ではないか。下流だけ残し、上流部を掘削し礫河原として再生すること等も考えられる。

### ○ 伐木について

- ・ 伐木は河道管理、植生管理の観点から行われてきたが、伐木した効果を治水面、環境面で評価することが大切である。
- ・ 伐木台帳を整理すると経年的な変化を把握することが出来、何年後に伐木が必要かを検討することが出来る。

### ○ 平成 24 年度 環境調査計画について

- ・ 今後の工事施工箇所調査の検討フローについて、Bから「基本的に事前調査は実施しない」という動きも出てくる(Bからの矢印の追加)。「事前調査の実施」と「工事計画の修正、工事の施工」双方向に関連する(両矢印の追加)。

## 【平成 24 年度 工事箇所モニタリング調査計画について】

### ○ 桃園地区低水護岸工事について

- ・ 桃園地区低水護岸工事における調査実施予定について、ワンド環境の把握のために、魚類調査に加え貝類を追加する。
- ・ 簡易魚道の設置に関連し、アユの遡上が増えてきているので、遡上したアユが何処で生活しているか、産卵しているか等、アユの生活史を確認することが大切である。

## 【平成 23 年度 工事事前調査結果報告について】

## 【平成 22 年度 工事事後調査結果報告について】

### ○ 全体について

- ・ 単年度でなく数年にわたる計画の中で今年がどのような位置にあるのかを整理して実現することが望ましい。
- ・ 水の中の魚類は何か等と特定せず、どういものが普通の生態系の中で生育していくことが重要であるとの

認識の中で、オイカワについて他の河川との違いを調べていくことも大切である。

- ・ 陸上植物の外来種率は高くなっているが、猪名川では水の中の外来種率が低い状況であり猪名川の特徴である。土砂管理がさらに上手に進めば、在来種が増えてくることが期待できる。
- ・ 大きな濁水があると在来種が増える傾向にあり、濁水に適合する在来種の発芽率が高くなっているのではないかと予想される。

#### 【第 10 回猪名川総合土砂管理委員会報告】

- ・ 猪名川の大きな特性は、外来種率が陸上植物では非常に高いが、水中では低いことである。土砂全体の管理がうまくいくと、もう少し外来種率が低くなり、在来種が増えてくる状態が期待できる。
- ・ 濁水により外来種率が低下し、在来種率が高くなる事例があり、そういったことをさらに調査していけばよいと思う。
- ・ 河原に粘土質の物が堆積していない状態をつくることが必要で、今回試験施工をされた所で比高を下げるのもいいが、新たな土砂が流れてくることにより含水率の低い河原ができ、日照りに対して河原でのみ生き残れる環境が期待できる。そのためには早く土砂を投入すべきである。

以 上

## 第 12 回 猪名川自然環境委員会 構造検討部会 議事概要

日 時 平成 24 年 8 月 14 日(火) 現地視察:13:30~16:45 会議:17:00~18:30

場 所 現地視察:平成 24 年度工事予定箇所(下表参照)

会議:猪名川河川事務所 会議室

### 現地視察の行程

時間	場所	工事名 (仮称)
13:30	JR 尼崎駅 北口ロータリー (出発)	
13:45~14:05	①戸ノ内橋 (猪名川左岸 0.8k 付近)	・戸ノ内地区河道浚渫工事
14:05~14:25	移動 (車窓から視察)	・弥生ヶ丘・善法寺河道掘削工事(藻川 0.3k~1.0k) ・伐木 (藻川 0.6k~1.2k、藻川 1.4k~2.2k)
14:25~14:45	②利倉橋 (猪名川右岸 2.8k 付近)	・利倉地区他河道掘削工事
14:45~15:00	移動 (車窓から視察)	・伐木 (猪名川 4.6k~5.0k)
15:00~15:15	③猪名川・藻川分派点	・藻川分派地区河道掘削工事 ・伐木 (藻川 3.8k~4.5k)
15:45~16:05	④最明寺川合流点付近高水敷 (猪名川右岸 9.6k 付近)	・猪名川大橋地区礫河原再生工事
16:20~16:35	⑤猪名川左岸 10.4k 付近 堤防天端・高水敷	・池田床固簡易魚道設置工事
16:45	猪名川河川事務所 (到着)	

出席者 委員:村上委員(部会長)、池淵委員、田中委員、服部委員、竹門委員(オブザーバー)

猪名川河川事務所:福岡副所長、(調査・品質確保課) 荘司課長、横山係長、(工務課) 中澤係長、  
本岡係長、(園田出張所) 畠山所長

河川環境管理財団:今井、宝藤、安川

いであ株式会社 川西、石垣、生江(現地視察のみ)、井上、村山

- 議 事
- 平成 24 年度工事予定箇所の環境への影響評価と対策について
  - 平成 24 年度自然再生箇所等のモニタリング調査計画について

### 1. 結果および指摘事項等

#### (1) 平成 24 年度工事予定箇所の環境への影響評価と対策について

##### 1) 戸ノ内地区河道浚渫工事

- 河床が浮泥であれば掘削は必要でない。事前に掘削土砂の状況を把握する必要がある。
- 効果的な河道掘削となるよう、前回の掘削から堆積した土砂の種類や量などを整理し、現状を把握する必要がある。

## 2) 利倉地区他河道掘削工事

- 掘削断面は、河川縦断方向も含め、様々なバリエーションの冠水が生じるよう、河床を水平で平らにするのではなく、傾斜をつけ凹凸のある形状とする必要がある。
- 掘削後にどれだけ多様な流れを創出できるのかがポイントである。現況で流れにアクセントのある箇所や河川形状から形成されている右岸側の砂州などを残す必要がある。
- 川の営力を活かすことを視点として、ワンドやたまりを形成するような掘削形状の工夫が必要である。
- 掘削範囲に生育しているミコシガヤは、一時保管し、移植に適切な場所を見つけ、3月頃の適切な時期に移植を行うべきである。

## 3) 藻川分派地区河道掘削工事

- 河道掘削は、平常時における猪名川と藻川の分派流量の観点からも検討を行い、河川環境に留意した掘削の断面や範囲などを設定すべきである。
- 河道掘削の総量は、猪名川の流出土砂量の何年分に相当するのかを把握しておく必要がある。

## 4) 猪名川大橋地区礫河原再生工事

- これまで、礫河原の再生は、低水路等の切り下げを行い、流水の掃流力によって形成されることを基本方針としてきた。しかし、これまでの試験施工の結果から、その方法のみでは礫河原を再生することが困難であることが確認できた。このため、今後の礫河原の再生は、低水路等の切り下げに加えて、礫河原の材料となる動きやすい土砂を供給する必要がある。
- 最明寺川の合流部に形成されているワンド・たまり、ヤナギを残し、再生した礫河原とともに JR 宝塚線から望める一体的な整備が必要である。
- 伐採後の樹木は景観の悪化を招いている。根元から伐採することが景観的にも望ましい。また、センダンなど、川にふさわしくない樹木の残っており、伐採することが望ましい。

## 5) 池田床固簡易魚道設置工事

- 現況の床固は、既に全断面魚道のようになっており、新たに魚道を整備するよりも床固の改良で対処した方が良い。
- 床固の改良は、既設ブロックの移動と隙間への間詰めにより、様々な深み(プール)をつくり、めりはりのある遡上経路を確保する方法が良い。

## 6) 伐木

- 伐採の際には、ヤナギなどの代表的な樹種について、大径木 3 本を対象として、樹高、胸高直径、根元直径および年輪を調査すべきである。この調査により、樹林化までの期間等が把握でき、今後の伐採計画に利用できる。

## 7) その他工事 (弥生ヶ丘・善法寺河道掘削工事、中村地区低水護岸復旧補修工事、久代北台井堰簡易魚道設置工事)

- 本日、現地視察を行い議論した地区と共通となる事項を適用して対応する。

## (2) 平成 24 年度自然再生箇所等のモニタリング調査計画について

- モニタリング調査計画は、昨年度に調査項目を確認しており、また、調査結果も経過報告であるため、調査結果が出揃った段階で検討する。

## 2. 意見および助言等

### (1) 平成 24 年度工事予定箇所の環境への影響評価と対策について

#### 1) 戸ノ内地区河道浚渫工事

- 魚類だけでなく、将来的には汽水干潟を含む多様な水生生物の棲家ができるように仕掛けを作っていたきたい。
- 工事前に河床の調査が困難な場合は、工事の際に掘削した土の調査を行い、今後の河道掘削に反映させるべきである。

#### 2) 利倉地区他河道掘削工事

- ブロックやヤナギの根などは、生物の棲家になっており、できる限り残すとともに積極的に創り出してほしい。
- 過年度に河道の掘削土量と浸食土量との関係を検討した資料があったように記憶している。その成果も活用して河道掘削の計画を確認したい。
- 汽水域から淡水域に移行した最初の瀬(藻川 3.9k 付近)は、アユの再生産に重要な場所である。この場所には、掘削を行う利倉地区の中州に多く存在しているこぶし大の石を置いてほしい。

#### 3) 藻川分派地区河道掘削工事

- 現状では藻川への分派量が多いように思われることから、猪名川への流下を促すような河道掘削が必要である。
- 今年度の工事は、猪名川下流部の掘削が予定されているが、今年度にも分派地点の掘削を実施し、猪名川の平常時流量を増加させてはどうか。
- 猪名川と藻川における平常時の分派量は、現状では明確な考え方がないため、まずは 1:1 の配分で試行してみてもどうか。
- 猪名川 5.4k~6.0k 付近の左岸側は、高水敷が川側へ張り出しており、猪名川への流下を阻害しているものと考えられる。猪名川では高水敷の公園利用を望む声が多いが、高水敷の切り下げや低水路の拡幅を行っていくべきではないか。

#### 4) 猪名川大橋地区礫河原再生工事

- 土砂の供給は、礫河原の再生を行う現場の掘削土砂(砂礫)を利用すればよい。
- 猪名川大橋地区では、切り下げの掘削土砂を久代北台井堰の直下流に押し出して残す方法が考えられる。
- 一度に全ての範囲を施工できない場合は、縦断的に掘削した水路を設け、そこから浸食が進行するようにする方法が考えられる。川側を残し、堤防側を掘削した方が自然の力を利用でき、効果的と思われる。
- 土砂を供給したことにより当初は多少濁りが生じるが、後に濁りはなくなるため一時的な濁水は許容すべきではないか。

#### 5) 池田床固簡易魚道設置工事

- 遡上経路は、床固の全断面を利用し、現況の床固の状態と水位・流量に応じて確保できるようにする。例えば、水位が低いときは床固の中央部、その次に右岸側、最後に左岸側が遡上経路になるようにする。

#### 6) 伐木

- ヤナギの根は水生生物の棲家になっているため、治水上問題なければ、根部分を何箇所か残してほしい。
- 過年度に調査した結果を整理したヤナギの分布図があるはずである。その資料を活用すると良い。

#### (2) その他

- 淀川では法律等に基づく重要種以外にヨシやオギなど、淀川を特徴づける種も加えたオリジナルの重要種を整理している。猪名川でもそのような基準を作成してはみてはどうか。
- 銀橋の開削状況について情報を提供していただきたい。
  - 兵庫県では  $1,400\text{m}^3/\text{s}$  の整備目標に向けて段階的に整備をしていく予定となっている。国土交通省は、この開削に合わせて整備を実施する予定だが、下流の神崎川も改修を進める必要があるため、懸案事項が存在する状況にある。

以 上